

# 朝倉市 第1次都市計画 マスタープラン

【第2次改訂版】

朝倉市の都市計画に関する基本的な方針

福岡県朝倉市



# 目 次

<b>第1章</b>	<b>都市計画マスタープランについて</b> .....	<b>2</b>
	1.都市計画マスタープランの位置づけ .....	2
	1) 策定の背景 .....	2
	2) 策定の目的 .....	2
	3) 役割 .....	3
	2.計画の対象と構成 .....	3
	1) 計画の対象 .....	3
	2) 策定の流れと構成 .....	4
<b>第2章</b>	<b>朝倉市の現況</b> .....	<b>6</b>
	1.都市の現状 .....	6
	1) 自然的条件 .....	6
	2) 歴史的条件 .....	10
	3) 社会・経済的条件 .....	13
	4) 都市計画の状況 .....	41
	2.上位・関連計画 .....	53
	1) 市の上位計画.....	53
	2) 都市計画.....	57
	3) 復興計画.....	60
	3.市民意向調査.....	61
	1) アンケート調査概要.....	61
	2) 調査結果の概要.....	61
<b>第3章</b>	<b>「まち」が抱える問題・課題</b> .....	<b>66</b>
	1.朝倉市が抱える問題・課題.....	66
	1) 土地利用に関する問題・課題 .....	66
	2) 都市施設に関する問題・課題 .....	69
	3) 市街地整備に関する問題・課題.....	71
	4) 都市の環境に関する問題・課題.....	73
	5) 都市の安全に関する問題・課題.....	75
	2.問題・課題の整理.....	76
<b>第4章</b>	<b>都市の将来像</b> .....	<b>80</b>
	1.都市づくりの基本理念.....	80
	2.都市の将来像.....	81
	1) 将来人口 .....	81
	2) 将来都市構造.....	82

# 目 次

<b>第5章 全体構想</b> .....	<b>88</b>
1.土地利用の方針 .....	88
1) 土地利用に関する基本的な考え方 .....	88
2) 土地利用計画と配置の方針 .....	90
3) 用途地域見直しの方向性について .....	96
2.都市施設整備の方針 .....	98
1) 交通施設の整備方針 .....	98
2) 公園緑地の整備方針 .....	103
3) 下水道・河川の整備方針 .....	107
4) その他都市施設の整備方針 .....	109
3.市街地整備の方針 .....	110
4.都市環境及び自然景観の方針 .....	112
1) 都市環境の方針 .....	112
2) 自然景観の方針 .....	112
3) 歴史・文化的な景観の方針 .....	113
5.安全・安心なまちづくり方針 .....	114
<b>第6章 地域別構想</b> .....	<b>118</b>
1.地域区分 .....	118
2.地域別方針 .....	119
1) 秋月地域の都市づくりの方針 .....	119
2) 甘木地域の都市づくりの方針 .....	124
3) 南陵地域の都市づくりの方針 .....	130
4) 十文字地域の都市づくりの方針 .....	135
5) 朝倉地域の都市づくりの方針 .....	140
6) 杷木地域の都市づくりの方針 .....	145
<b>第7章 実現化方策</b> .....	<b>152</b>
1.都市づくりの進め方 .....	152
1) 都市づくりの推進と取り組み方 .....	152
2) マスタープランの見直し .....	153
<b>用語集</b> 154	

## 第1章 都市計画マスタープランについて

# 第1章 都市計画マスタープランについて

## 1. 都市計画マスタープランの位置づけ

### 1) 策定の背景

朝倉市は、「平成の大合併」により、平成18年3月に甘木市、朝倉町及び杷木町の3市町が合併して誕生しました。

朝倉市は、福岡県のほぼ中央、福岡地方の東部に位置しています。また、大分自動車道や国道322号、386号、500号などにより福岡県内の各都市・地域や大分県、佐賀県などと結びついています。これら周辺の都市・地域との連携と交流を図りながら、市民の生活環境の維持向上を進め、高速交通機関などの立地特性を生かした成長が望まれます。

そのため、朝倉市では、新たな将来ビジョンを明確にしながら、計画的に施策の推進を図る必要があります。現在、朝倉市では令和5年3月に策定された「第3次朝倉市総合計画」に基づいて、保健・医療・福祉、産業・観光、都市基盤・生活環境など総合的なまちづくりを進めています。そして、都市計画では、土地利用規制や道路、公園・緑地など都市施設のあり方を示す将来の都市づくりのビジョン、都市計画法第18条の2に基づく「市町村の都市計画に関する基本的な方針（以下、都市計画マスタープラン）」を定めることが求められています。

### 都市計画法

#### （市町村の都市計画に関する基本的な方針）

第18条の2 市町村は、議会の議決を経て定められた当該市町村の建設に関する基本構想並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即し、当該市町村の都市計画に関する基本的な方針（以下この条において「基本方針」という。）を定めるものとする。

2 市町村は、基本方針を定めようとするときは、あらかじめ、公聴会の開催等住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。

3 市町村は、基本方針を定めたときは、遅滞なく、これを公表するとともに、都道府県知事に通知しなければならない。

4 市町村が定める都市計画は、基本方針に即したものでなければならない。

### 2) 策定の目的

朝倉市都市計画マスタープランは、都市計画の観点から長期的な視点にたつて、社会的・経済的情勢に対応しながら、「第3次朝倉市総合計画」や「福岡都市圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）」など上位・関連計画との整合を図りながら、今後（概ね20年）の都市計画に関する基本的な方針を定めるものです。



### 3)役割

都市計画マスタープランは、都市計画に係る総合的な計画であり、以下のような役割を持っています。

#### ◆まちづくりの指針となります

都市の概況や市民の意向、第3次朝倉市総合計画などの上位・関連計画により、「まち」の問題・課題を把握し、まちづくりの理念、将来目標及び将来都市像を示し、市民や行政、地域などが協働で行うまちづくりの指針となります。

#### ◆個々の土地利用規制や各種事業の都市計画決定・変更の指針となります

都市計画を進めるには、朝倉市都市計画マスタープランの都市の将来像などの基本方針に即したものであることが必要であり、都市計画法をはじめ個々の土地利用規制や各種事業の都市計画決定・変更の指針となります。

#### ◆個々の都市計画における相互調整を担います

都市の将来像に基づき、土地利用、道路網や公園・緑地、下水道などの施設整備、都市環境・自然景観及び市街地整備などのまちづくり事業について、都市計画相互の調整を図ることができます。

## 2.計画の対象と構成

### 1)計画の対象

本計画では、現状の都市計画区域内のみでなく、市全域の土地利用方針などを定めることにより、総合的に都市計画やまちづくりを進めるため、対象区域を朝倉市全域とします。

目標年次については、平成22年を初年度に、中間的な目標年次を令和2年としてきました。長期的な目標年次を令和12年としています。

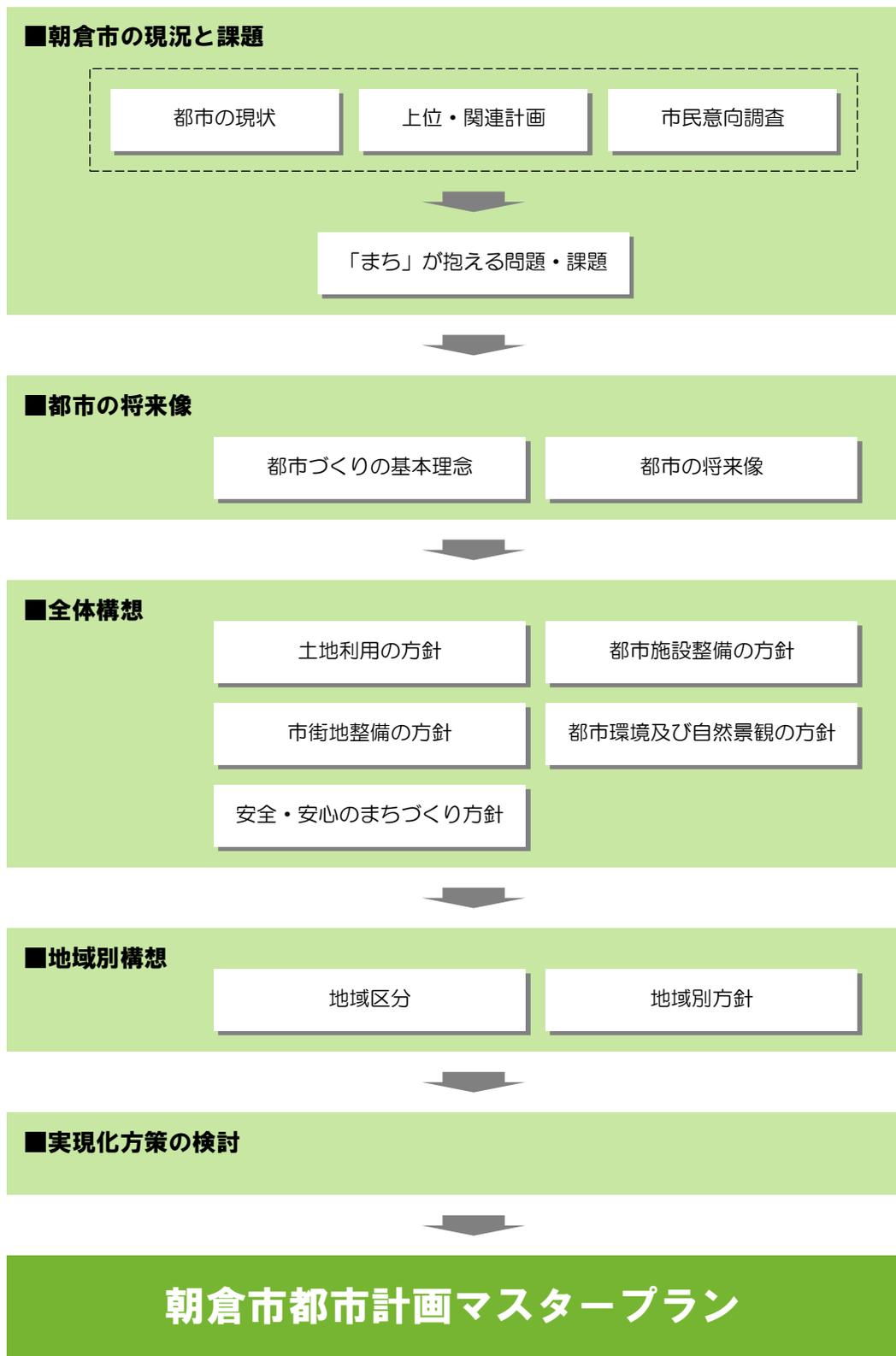
なお、社会経済情勢の変化に対応し、適切に見直しを行っていきます。

平成22年 (初年度)	令和2年 (2020)	令和12年 (2030)
----------------	----------------	-----------------

中期的なまちづくり

長期的なまちづくり

## 2)策定の流れと構成



## 第2章 朝倉市の現況

---

## 第2章 朝倉市の現況

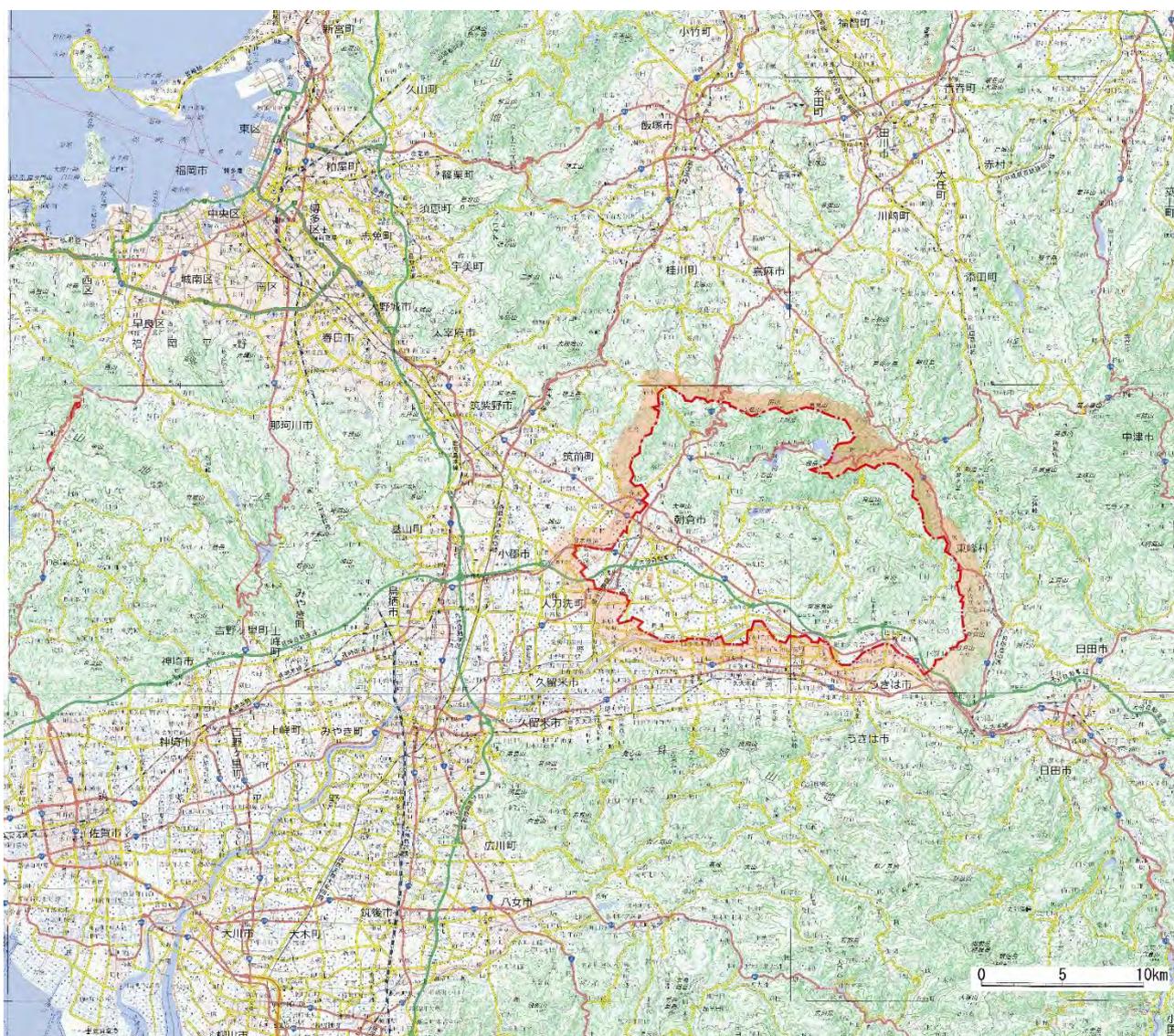
### 1.都市の現状

#### 1)自然的条件

##### (1)位置

本市は福岡県のほぼ中央に位置し、北側は福岡都市圏に近接し、南側は久留米都市圏に接しています。また、本市の東側では大分県日田市と接しています。本市の面積は 246.71 km<sup>2</sup>であり、福岡県内では北九州市、八女市、福岡市に次ぐ広さを有します。

##### ■位置図

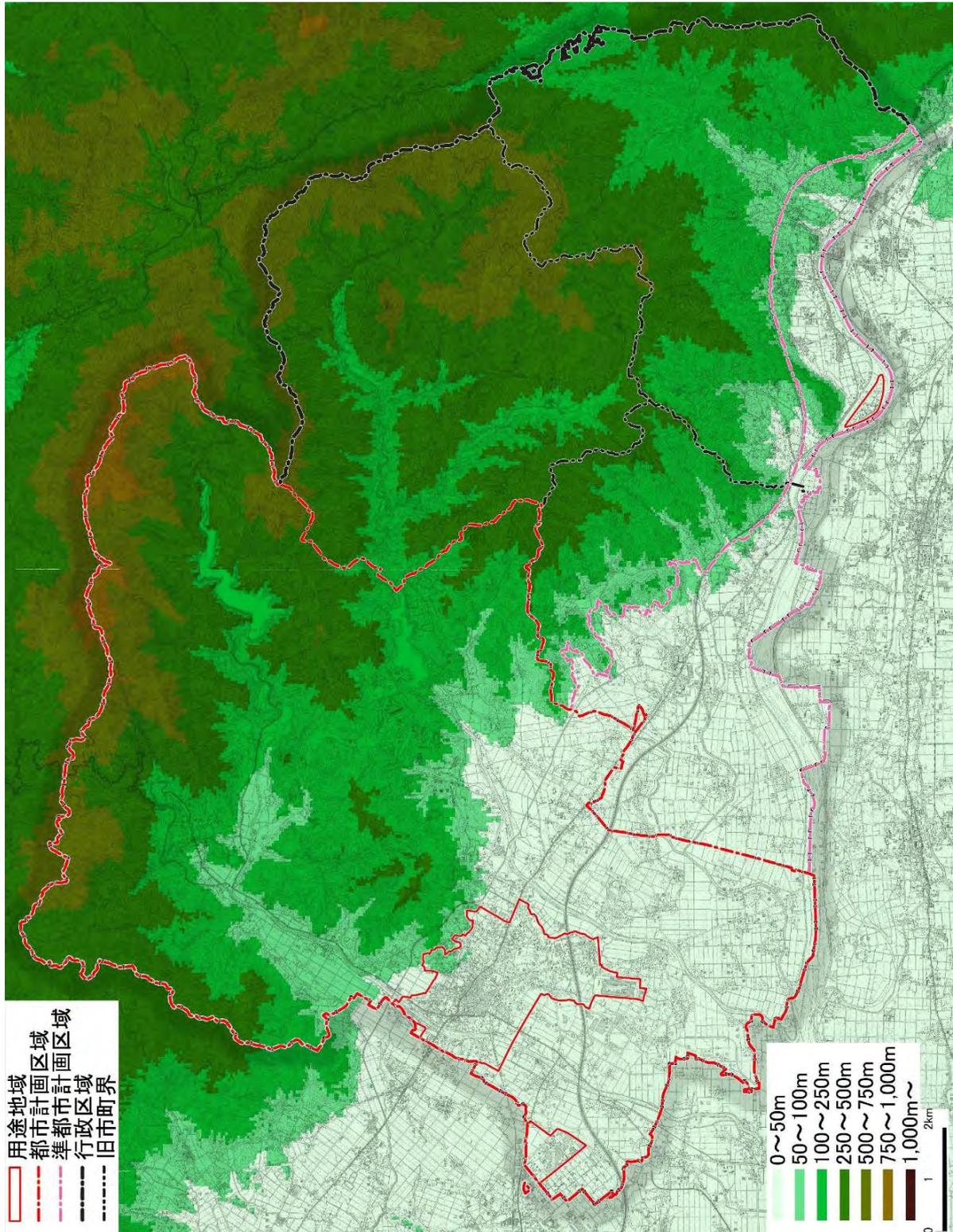


資料：国土地理院 1/200,000 地勢図 50%  
「福岡」(令和4年 発行)  
「熊本」(令和4年 発行)

## (2)地形

本市の地形は、北部から東部にかけて、筑紫山地に連なる古処山、馬見山など 800～1,000m 級の山々がそびえています。この山地の中に福岡市など周辺地区への水資源供給の役割を担う江川ダム、寺内ダム及び小石原川ダムの3つのダムがあります。南部及び西部は、筑紫平野に位置し、筑後川によって形成された沖積地と、小石原川や佐田川など筑後川の支流によって形成された洪積台地からなっています。

### ■等高線図

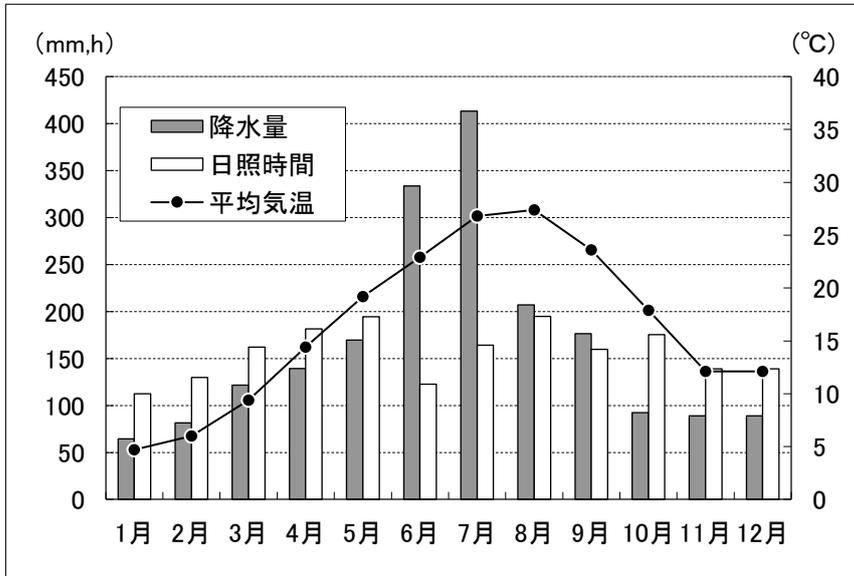




### (3) 気象

本市の気候は、北側を筑紫山地がさえぎっていることから、玄界灘に面した諸都市に比して冬季の日照に比較的恵まれるとともに、昼夜間の気温差が大きく、風の弱い内陸型の特徴を示しています。市内にある朝倉地域気象観測所の気象統計では、年間降水量は 1,953.0mm (1991年～2020年の平年値)、年間日照時間 1,854.9h (1991年～2020年の平年値) となっています。

#### ■朝倉地域気象観測所における平年値



資料: 気象庁webページ 気象統計情報

	降水量 mm	平均気温 °C	日照時間 時間
1月	64.6	4.7	112.5
2月	81.4	6.0	129.7
3月	121.8	9.4	162.3
4月	139.2	14.4	181.5
5月	169.5	19.2	194.6
6月	333.6	22.9	122.6
7月	413.2	26.8	164.1
8月	206.9	27.4	194.7
9月	176.6	23.6	159.6
10月	92.4	17.9	175.3
11月	88.9	12.1	139.0
12月	88.9	12.1	139.0
年間	1,953.0	15.9	1,854.9



## 2)歴史的条件

### (1)合併の背景とその経緯

当初、朝倉市（甘木市・朝倉町・杷木町）は、甘木・朝倉 1 市 4 町 2 村（旧朝倉郡全体）で構成する甘木・朝倉市町村合併任意協議会に参加し、合併協議を進めていました。

しかし、任意協議会から法定協議会である甘木・朝倉市町村合併協議会への移行に際し、夜須町・三輪町は参加を見送り、2 町合併による筑前町として平成 17 年 3 月に合併しました。

その後、小石原村・宝珠山村は 2 村による合併を選択し、東峰村として平成 17 年 3 月に合併しました。

甘木市・朝倉町・杷木町においても、今後の行政運営において合併を契機とした行財政改革は必要不可欠との判断の基、3 首長が合併への基本の方針を確認し、1 市 2 町の議会による合併協議会設置の議決を経て、平成 16 年 10 月に甘木市・朝倉町・杷木町合併協議会を設置しました。その後協議を重ね、平成 18 年 3 月に朝倉市が誕生しました。

### ■昭和の大合併以後の旧市町の沿革

甘木市	昭和 29 年	合併 市制施行（甘木市）	甘木町、上秋月村、秋月町、安川村、馬田村、 蜷城村、立石村、福田村、三奈木村、金川村
	昭和 30 年	編入	高木村
朝倉町	昭和 30 年	合併（朝倉村）	朝倉村、宮野村、大福村
	昭和 37 年	町制施行（朝倉町）	
杷木町	昭和 26 年	合併（杷木町）	杷木町、松末村、久喜宮村、志波村

	明治42年	昭和26年	昭和29年	昭和30年	昭和37年	平成18年	
甘木町			甘木市 (市制施行)	甘木市		朝倉市	
上秋月村							
秋月町							
安川村							
馬田村							
蜷城村							
立石村							
福田村							
三奈木村							
金川村							
高木村							
朝倉村				朝倉村	朝倉町 (町制施行)		
宮野村							
大庭村	大福村						
福成村							
杷木町		杷木町					
松末村							
久喜宮村							
志波村							

## (2)指定文化財

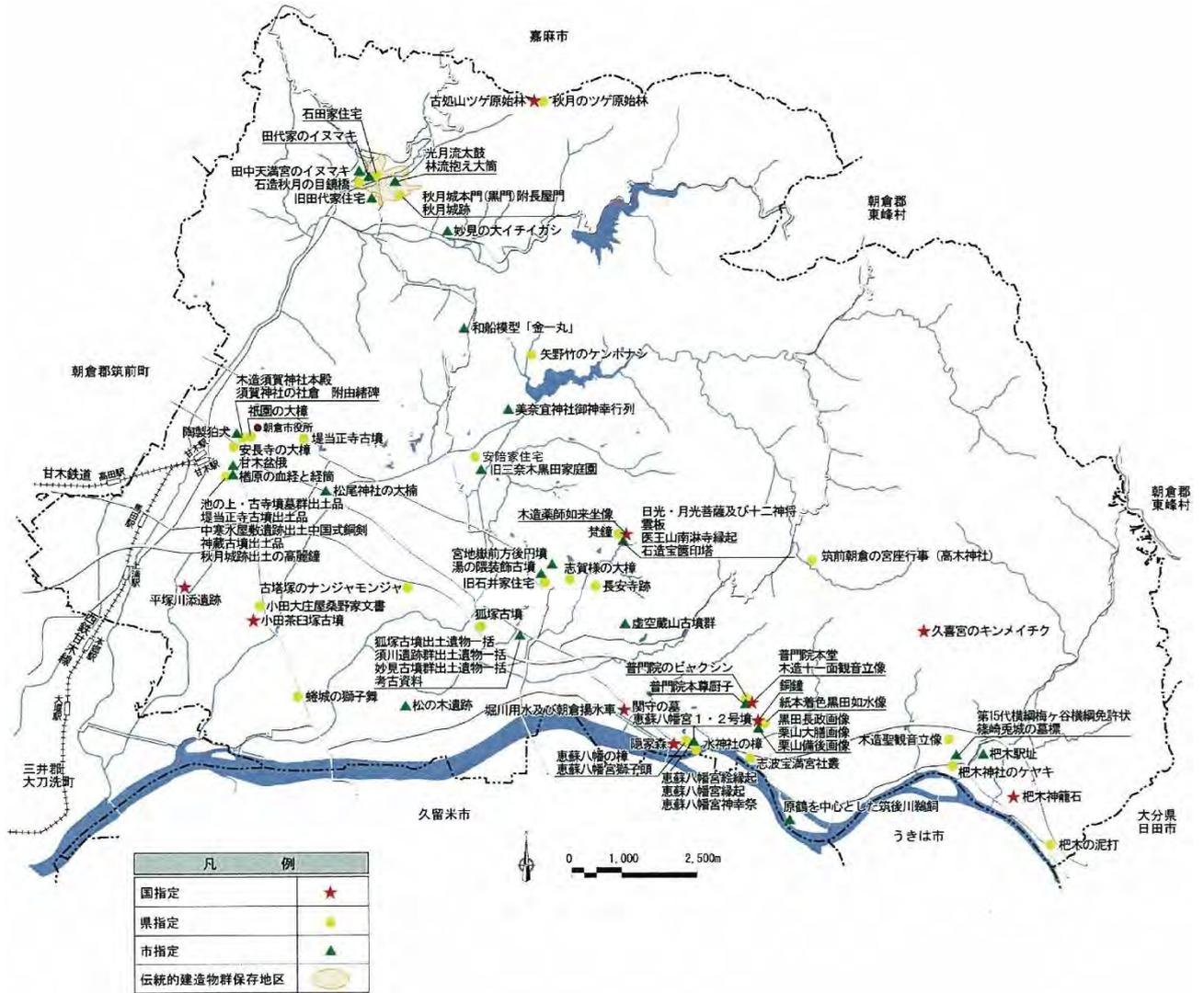
朝倉市における国・県指定の指定文化財は下表に示したように、国指定文化財では、重要文化財（建造物）の普門院本堂や史跡の平塚川添遺跡、朝倉市秋月重要伝統的建造物群保存地区などがあり、県指定文化財では、史跡や天然記念物が多く指定されています。

## ■主な指定文化財（国・県指定）

指定主体	種別	名称
国指定	重要文化財(建造物)	普門院本堂
	重要文化財(彫刻)	木造十一面観音立像
		木造薬師如来坐像
	重要文化財(工芸)	銅鐘
	史跡	小田茶臼塚古墳
		平塚川添遺跡
		杷木神籠石 堀川用水及び朝倉揚水車
	特別天然記念物	古処山ツゲ原始林
	天然記念物	久喜宮のキンメイチク
隠家森		
重要伝統的建造物群保存地区	朝倉市秋月重要伝統的建造物群保存地区	
県指定	有形文化財(建造物)	木造須賀神社本殿
		秋月城本門(黒門) 附 長屋門
		石田家住宅
		石造秋月の目鏡橋
		旧石井家住宅
	有形文化財(絵画)	紙本著色黒田如水像
	有形文化財(彫刻)	木造聖観音立像
	有形文化財(工芸)	梵鐘
	有形文化財(古文書)	小田組大庄屋桑野家文書
	有形文化財(考古資料)	池の上・古寺墳墓群出土品
		秋月城跡出土高麗鐘
		堤当正寺古墳出土品
		中寒水屋敷遺跡出土中国式銅剣
		神蔵古墳出土品
	有形民俗文化財	須賀神社の社倉(備荒庫) 附 由緒碑
		恵蘇八幡宮獅子頭
	無形民俗文化財	蜷城の獅子舞
		筑前朝倉の宮座行事 高木神社の宮座行事
		杷木の泥打
	史跡	秋月城跡
		女男石護岸施設
		堤当正寺古墳
		狐塚古墳
		長安寺跡
	天然記念物	祇園の大樟
		安長寺の大樟
		秋月のツゲ原始林
		矢野竹のケンボナシ
		杷木神社のケヤキ
		志波宝満宮社叢
		普門院のビャクシン
		水神社の樟
		志賀様の大樟
古塔塚のナンジャモンジャ		
恵蘇八幡の樟		

資料：ふくおか社会教育ネットワーク web ページ 福岡県の文化財

■指定文化財の位置図



### 3)社会・経済的条件

#### (1)人口・世帯

##### ①人口・世帯

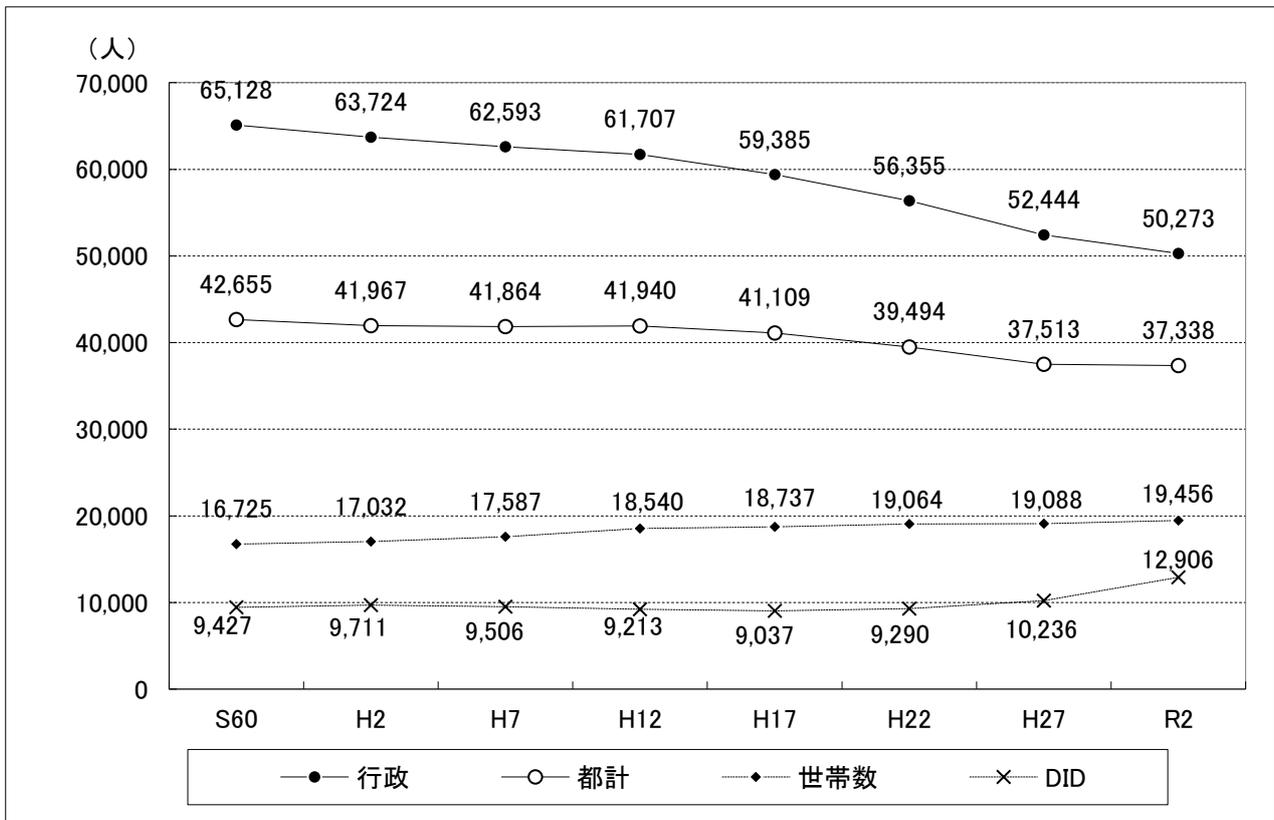
令和2年の国勢調査による総人口は50,273人、総世帯数は19,456世帯です。

過去35年間の人口推移では減少傾向を示しています。一方、世帯数は一貫して増加傾向が続いていますが世帯人員は減少しています。

地域別にみると、甘木地域では、人口は減少傾向に、世帯は増加傾向にあります。朝倉地域と杷木地域では、人口・世帯ともに減少傾向にあります。

人口集中地区（DID）は平成27年から令和2年にかけて増加しています。これは、人口集中地区の範囲が広がったことに拠ります。（20ページ参照）

#### ■人口推移

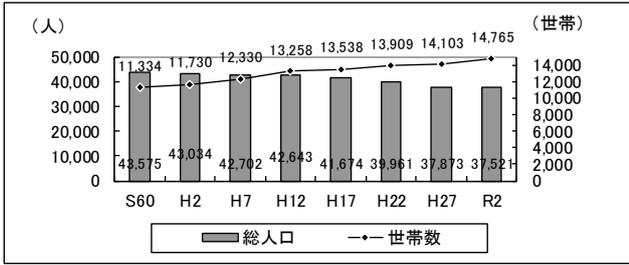


単位	S60 1985	H2 1990	H7 1995	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015	R2 2020
総人口	65,128	63,724	62,593	61,707	59,385	56,355	52,444	50,273
都市計画区域	42,655	41,967	41,864	41,940	41,109	39,494	37,513	37,338
用途地域	18,774	18,933	19,337	19,216	19,472	15,892	15,140	15,728
準都市計画区域	-	-	-	15,710	15,067	11,298	10,142	9,423
人口集中地区	9,427	9,711	9,506	9,213	9,037	9,290	10,236	12,906
世帯数	16,725	17,032	17,587	18,540	18,737	19,064	19,088	19,456
世帯人員	3.89	3.74	3.56	3.33	3.17	2.96	2.75	2.58

注：都市計画区域等は、都市計画基礎調査による。

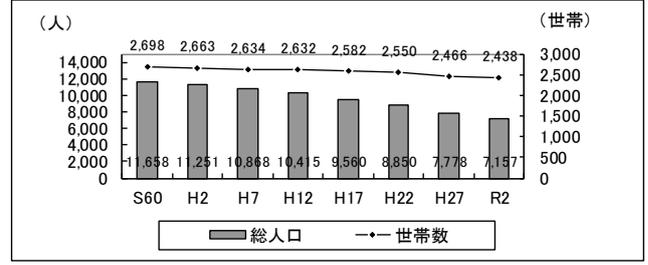
資料：国勢調査

■地域別の人口推移



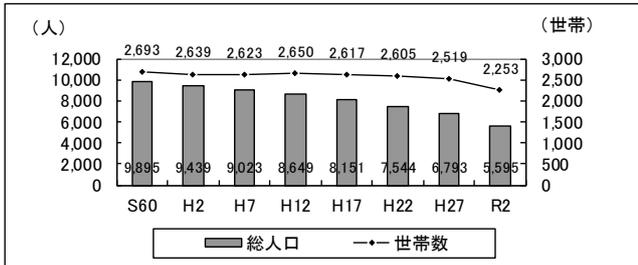
甘木地域	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
単位	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
総人口 人	43,575	43,034	42,702	42,643	41,674	39,961	37,873	37,521
世帯数 世帯	11,334	11,730	12,330	13,258	13,538	13,909	14,103	14,765

資料:国勢調査



朝倉地域	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
単位	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
総人口 人	11,658	11,251	10,868	10,415	9,560	8,850	7,778	7,157
世帯数 世帯	2,698	2,663	2,634	2,632	2,582	2,550	2,466	2,438

資料:国勢調査



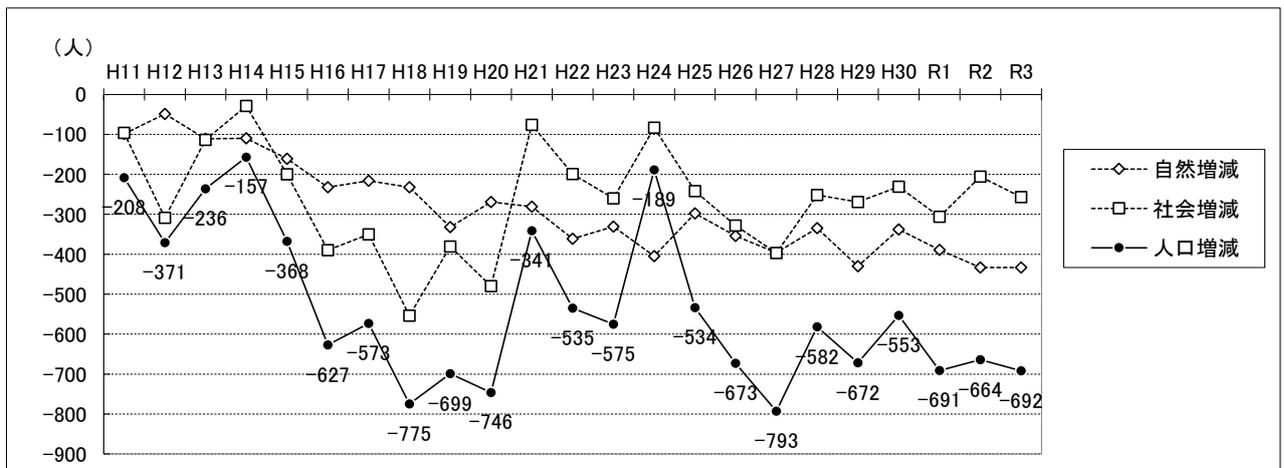
杷木地域	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
単位	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
総人口 人	9,895	9,439	9,023	8,649	8,151	7,544	6,793	5,595
世帯数 世帯	2,693	2,639	2,623	2,650	2,617	2,605	2,519	2,253

資料:国勢調査

②人口動態

平成 11 年度から令和 3 年度の朝倉市の人口動態をみると、毎年 150 人以上の人口減少となっています。特に、平成 16 年度以降、平成 20 年度まで、平成 25 年以降は毎年 500 人以上の人口減少を示しています。

■人口動態



注:年度集計。なお、人口増減にはその他を含む

資料:福岡県住民基本台帳年報

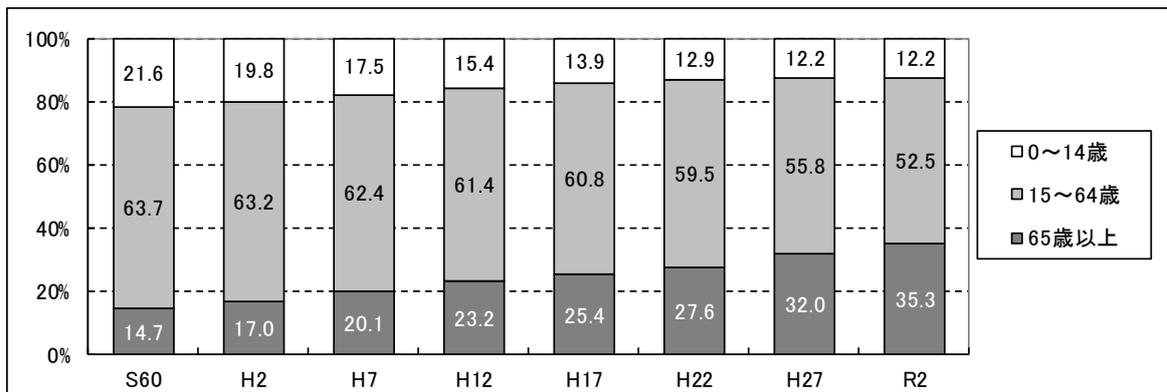
### ③年齢別人口

令和2年の年齢別人口をみると、0～14歳（年少人口）が6,071人（12.2%）、15～64歳（生産年齢人口）が26,115人（52.5%）、65歳以上（老年人口）が17,523人（35.3%）となっています。

福岡県平均と比較すると、年少人口はほぼ同割合（福岡県平均：13.3%）ですが、生産年齢人口では約6ポイント低く（福岡県平均：58.6%）、老年人口は約7ポイント高く（福岡県平均：28.1%）なっています。

地域別にみると、朝倉地域と杷木地域で、老年人口の割合が40%を超えており、高齢化が早く進んでいます。

### ■年齢別人口



	単位	S60 1985	H2 1990	H7 1995	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015	R2 2020
0～14歳	人	14,040	12,617	10,973	9,501	8,223	7,255	6,307	6,071
15～64歳	人	41,482	40,200	39,051	37,879	36,066	33,467	28,952	26,115
65歳以上	人	9,606	10,834	12,566	14,302	15,048	15,560	16,607	17,523
年齢不詳	人	0	73	3	25	48	73	578	564

資料：国勢調査（グラフは年齢不詳を除く）

### ■地域別の年齢別人口

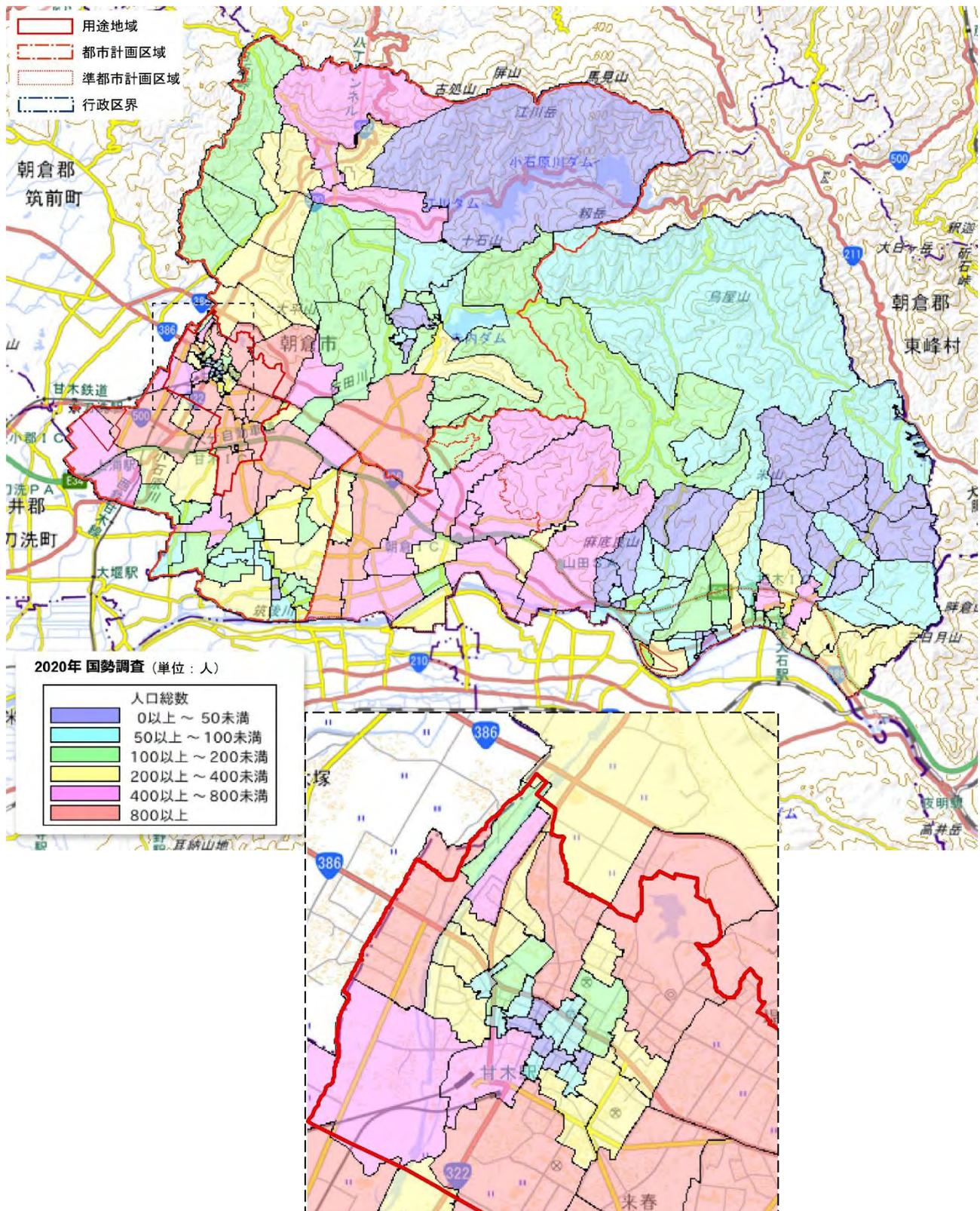
	単位	地域別			比較	
		甘木地域	朝倉地域	杷木地域	朝倉市	福岡県
0～14歳	人	4,800	737	534	6,071	662,179
	%	13.0	10.3	9.6	12.2	13.3
15～64歳	人	19,832	3,515	2,768	26,115	2,911,353
	%	53.6	49.2	49.9	52.5	58.6
65歳以上	人	12,379	2,898	2,246	17,523	1,395,142
	%	33.4	40.5	40.5	35.3	28.1
年齢不詳	人	510	7	47	564	132,882

資料：令和2年国勢調査（%は年齢不詳を除く）

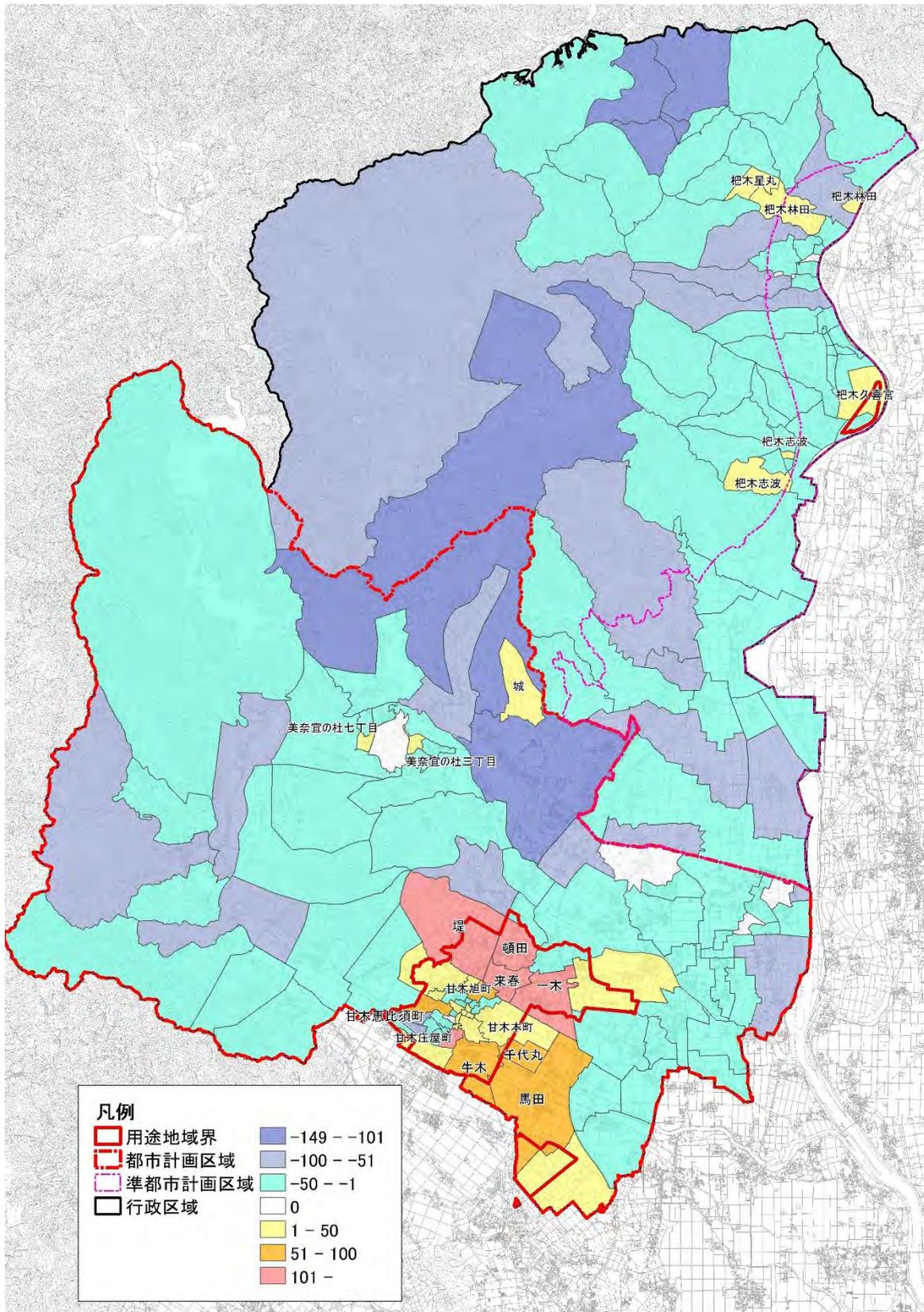
#### ④町丁・字別人口

平成27年と令和2年の町丁・字別人口増減をみると、多くの町丁・字で人口減少がみられます。一方で、甘木地域では用途地域の縁辺部（甘木、頓田、一木など）や美奈宜の杜など、杷木地域では杷木久喜宮や杷木志波などでそれぞれ人口増加がみられます。

#### ■町丁・字別の人口数（令和2年国勢調査）



■町丁・字別の人口増減数（平成 27、令和 2 年国勢調査）



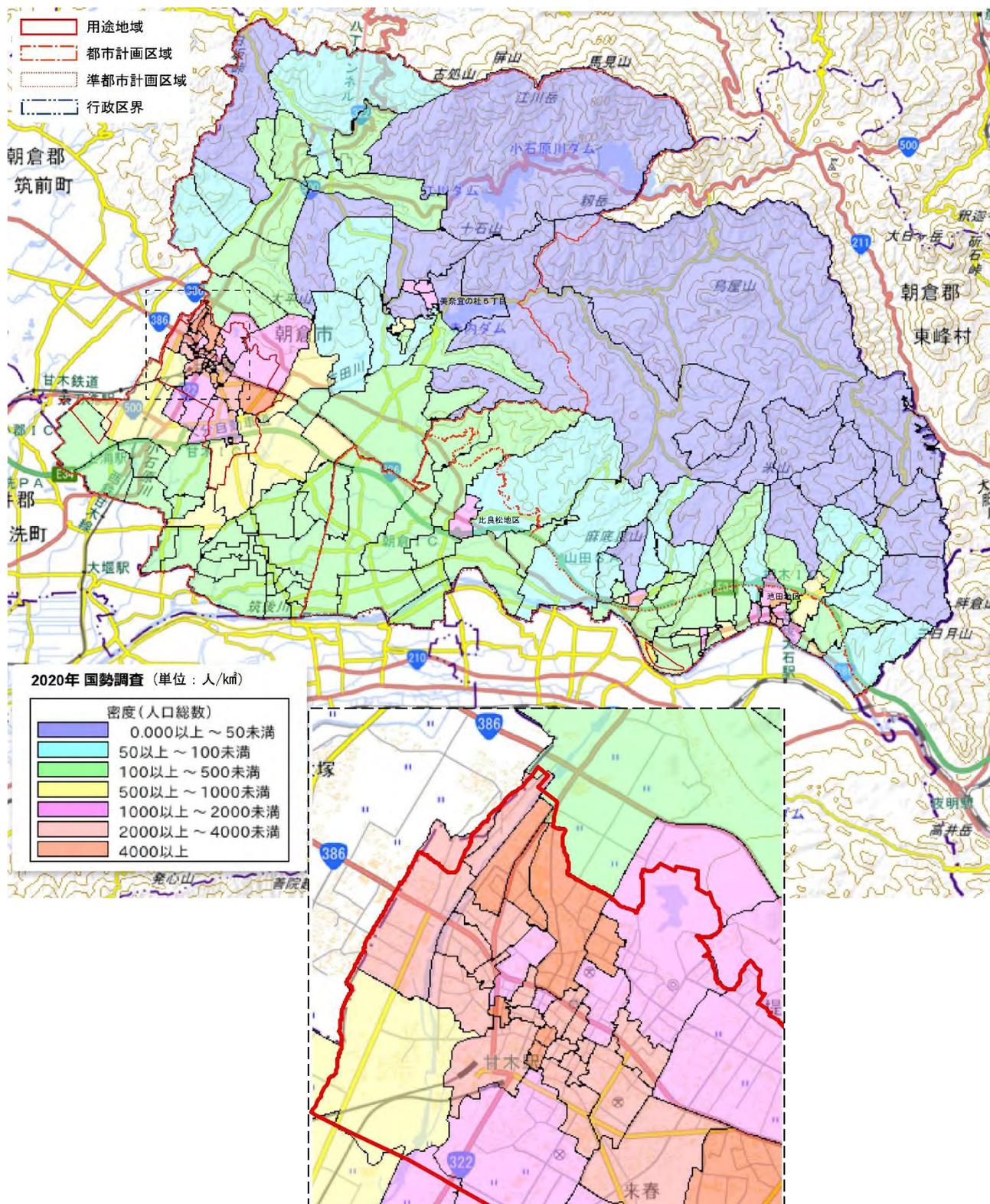
資料：国勢調査 小地域集計

### ⑤調査地区別人口密度

調査地区別人口密度をみると、用途地域内で人口密度が高くなっています。特に甘木地域の中心部でその数値は高く、一部の調査地区では 4000 人/km<sup>2</sup>を超えています。

また、用途地域外では美奈宜の杜5丁目地区、準都市計画区域では比良松地区や杷木池田地区で少し高い数値が表れています。

#### ■調査地区別人口密度（令和2年国勢調査）



### ⑥通勤・通学

令和2年の国勢調査結果を基に、就業者・通学者の状況を見ると、朝倉市に居住する就業者・通学者の31.9%にあたる8,310人が、朝倉市以外の市町村に通勤・通学しています。そのうち、久留米市が最も多く1,876人、次いで、福岡市が1,169人となっています。

一方、朝倉市で働く就業者・通学者の41.3%にあたる12,468人が、朝倉市以外の市町村から通勤・通学しています。

そのうち、久留米市がもっとも多く2,649人、次いで、筑前町が2,322人となっています。

朝倉市に居住する就業者・通学者に対して、朝倉市で働く就業者及び朝倉市に通学する通学者の比率をみると116.0%となっており、流入が多い状態を示しています。平成7年以降、流入超過割合が増加傾向にあります。

#### ■就業者・通学者の状況（15歳以上の就業者・通学者）

	常住地による			従業地による			就業・通学者 比率 (従/常) %
	就業・通学者数 人	流出 就業・通学者数 人	流出率 %	就業・通学者数 人	流入 就業・通学者数 人	流入率 %	
H7	36,110	9,859	27.3	36,403	10,152	27.9	100.8
H12	34,910	9,740	27.9	37,641	12,471	33.1	107.8
H17	33,250	10,002	30.1	35,961	12,713	35.4	108.2
H22	30,569	10,365	33.9	33,577	13,373	39.8	109.8
H27	28,509	8,946	31.4	32,188	12,625	39.2	112.9
R2	26,013	8,310	31.9	30,171	12,468	41.3	116.0

資料:国勢調査

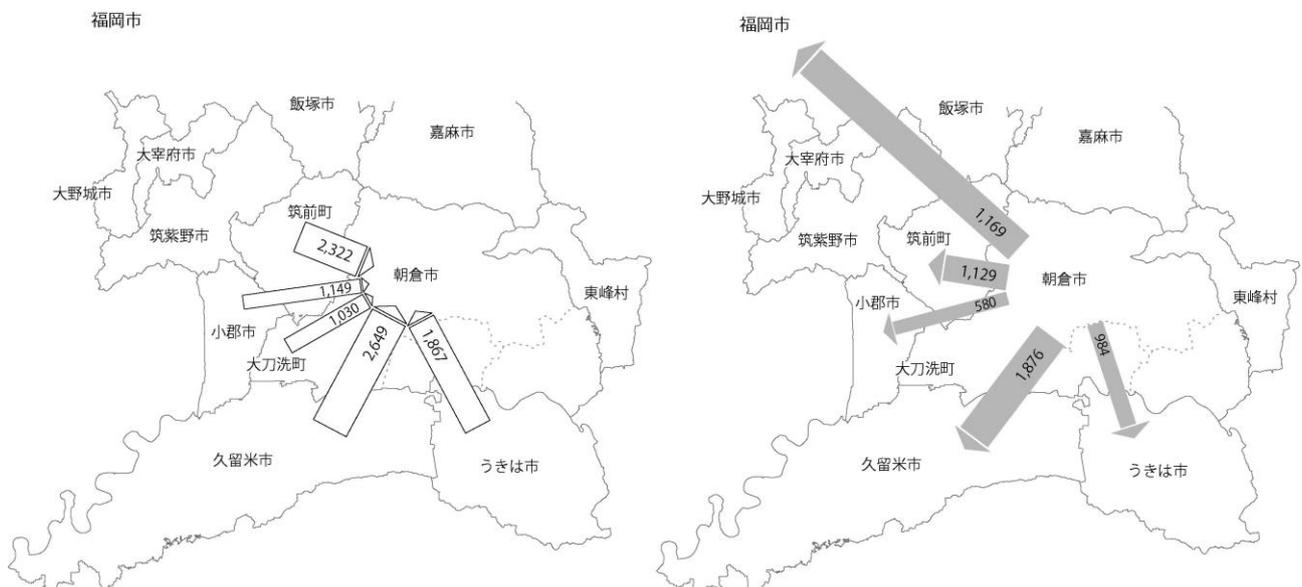
R2	流出			流入		
	市町村名	流出者数 人	流出率 %	市町村名	流入者数 人	流入率 %
第1位	久留米市	1,876	7.2	久留米市	2,649	8.8
第2位	福岡市	1,169	4.5	筑前町	2,322	7.7
第3位	筑前町	1,129	4.3	うきは市	1,867	6.2
第4位	うきは市	984	3.8	小郡市	1,149	3.8
第5位	小郡市	580	2.2	大刀洗町	1,030	3.4

※H22年以降の国勢調査ではそれまでと集計方法が異なり、集計値に従業地・通学地不明の数値が含まれています。  
 ※H22年とH27年には流出人口が集計されていないので、R2年国勢調査の考え方に合わせて集計しています。  
 「総就通人口－市内に常住で就通人口－市区町村不詳－従業通学地不詳＝流出人口」

資料:令和2年国勢調査

<流入>

<流出>

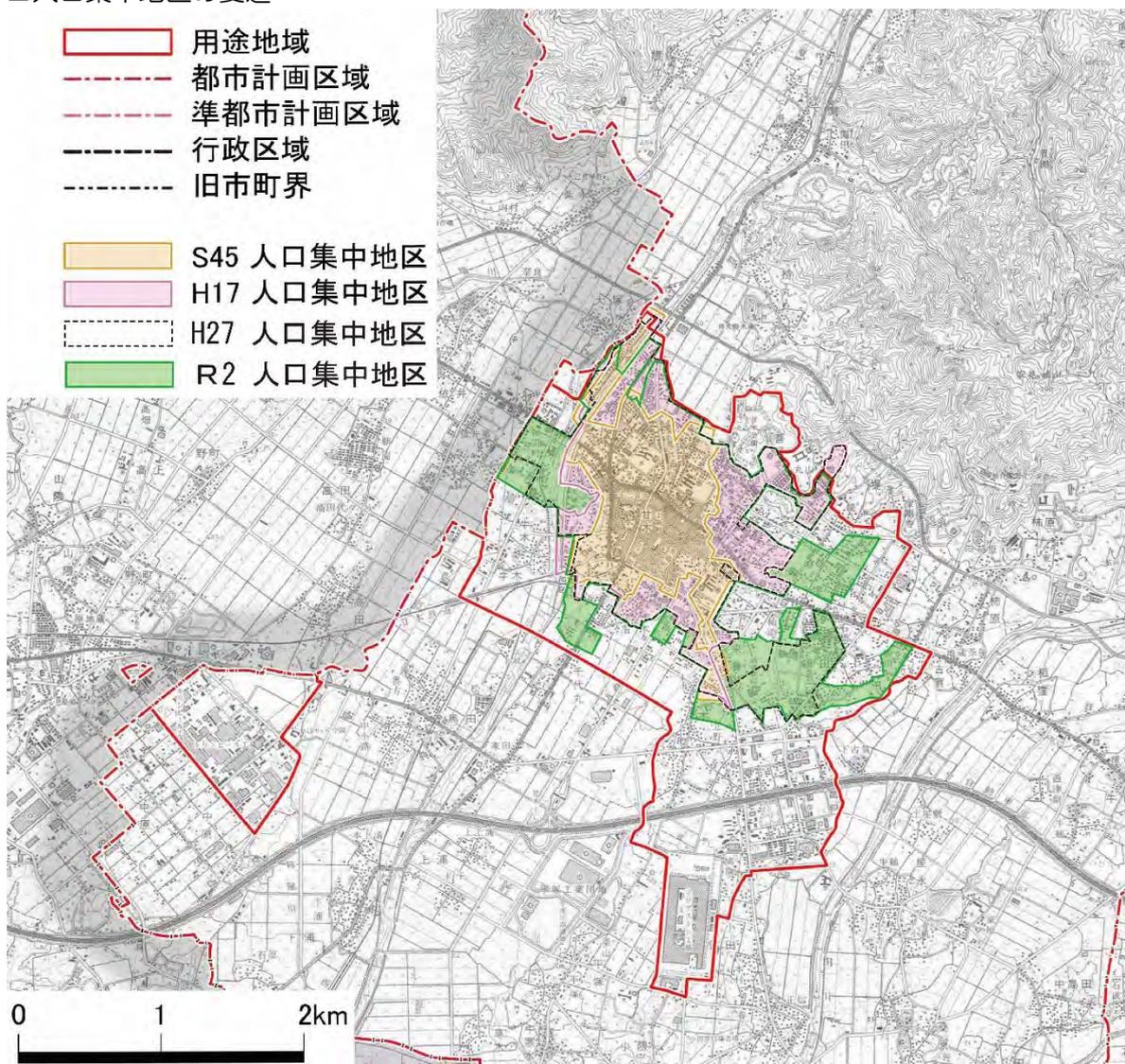


### ⑦人口集中地区

令和2年の人口集中地区の人口は12,906人、面積は3.27km<sup>2</sup>、人口密度は3,946人/km<sup>2</sup>となっています。経年変化をみると、面積は増加傾向にあり、人口、人口密度とも平成27年から令和2年にかけて、大きく増加に転じました。

なお、人口集中地区の範囲を昭和45年と令和2年を比較すると、全体的に広がっていることがわかります。

#### ■人口集中地区の変遷



#### ■人口集中地区の人口・面積の推移

	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
単位	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
人口 人	9,427	9,711	9,506	9,213	9,037	9,290	10,236	12,906
面積 km <sup>2</sup>	1.90	2.20	2.20	2.26	2.32	2.48	2.78	3.27
人口密度 人/km <sup>2</sup>	4,962	4,414	4,321	4,077	3,895	3,746	3,682	3,946

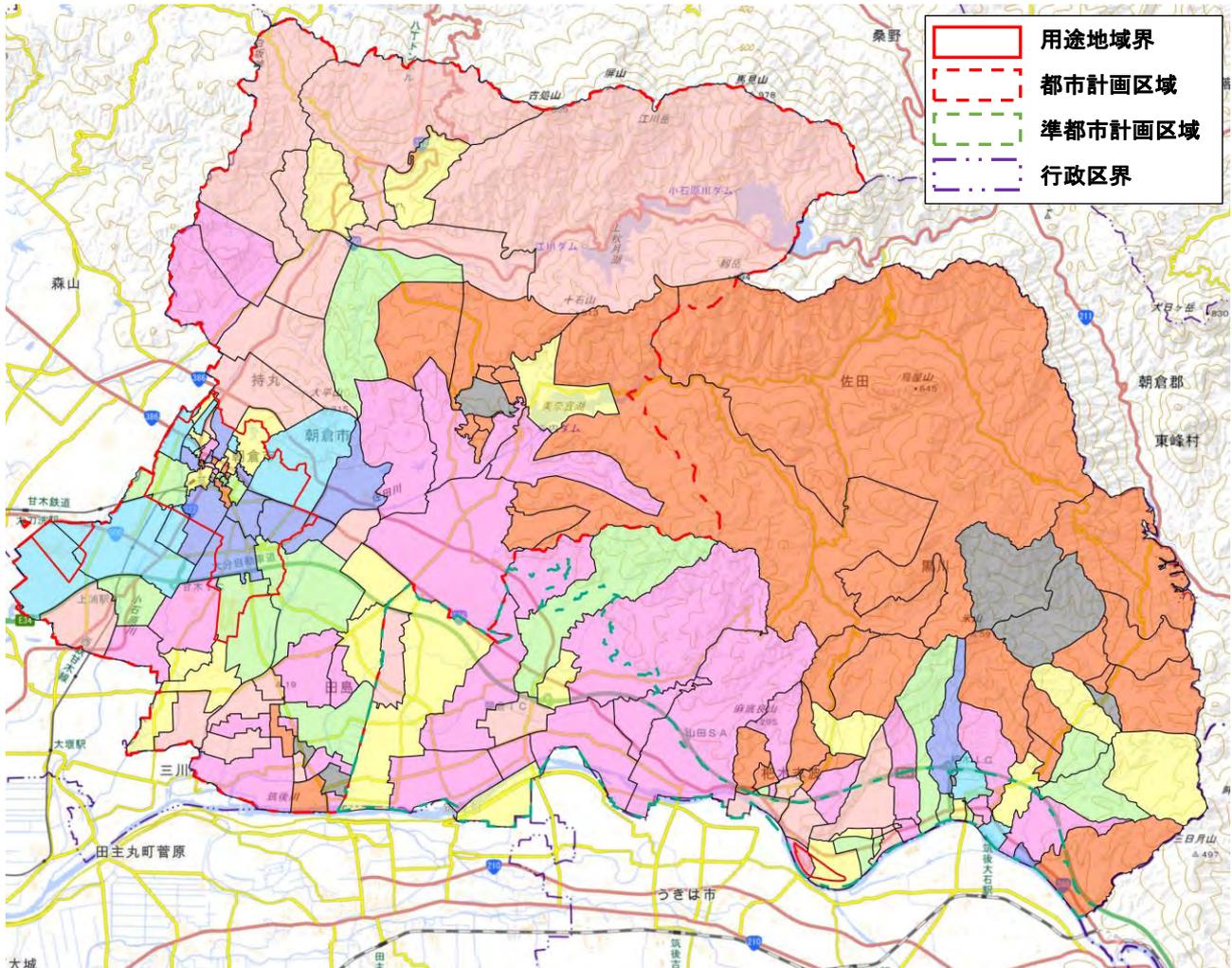
資料：国勢調査

### ⑧高齢化率

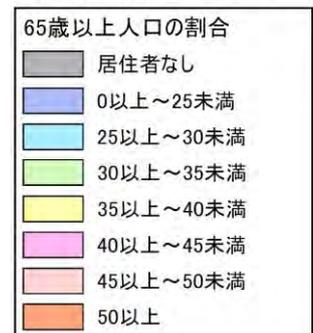
町丁・字別の高齢化率をみると、山間部で高齢化率が高くなっています。一方で、甘木地域の中心部では、高齢化率が朝倉市平均より高い町丁・字と平均より低い町丁・字が混在しています。用途地域縁辺部の町丁・字では、高齢化率が朝倉市平均より低い町丁・字が多くなっています。

なお、甘木地域の中心部に位置する町丁・字の平均をみると、0～14歳（年少人口）が8.7%、15～64歳（生産年齢人口）が49.6%、65歳以上（老年人口）が41.7%となっています。

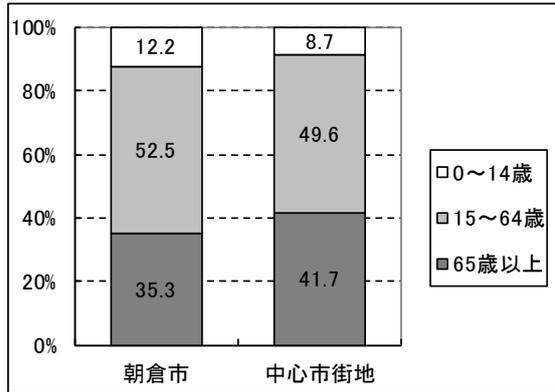
#### ■町丁・字別高齢化率（令和2年国勢調査 小地域集計）



2020年国勢調査（単位：％）



■朝倉市全域及び中心市街地の人口構成（令和2年）



資料：国勢調査（グラフは年齢不詳を除く）

	朝倉市			
	全 市		中心市街地	
	人	%	人	%
0~14歳	6,071	12.2	112	8.7
15~64歳	26,115	52.5	635	49.6
65歳以上	17,523	35.3	534	41.7
年齢不詳	564	-	28	-
合計	50,273	100.0	1,309	100.0

資料：令和2年国勢調査 小地域集計

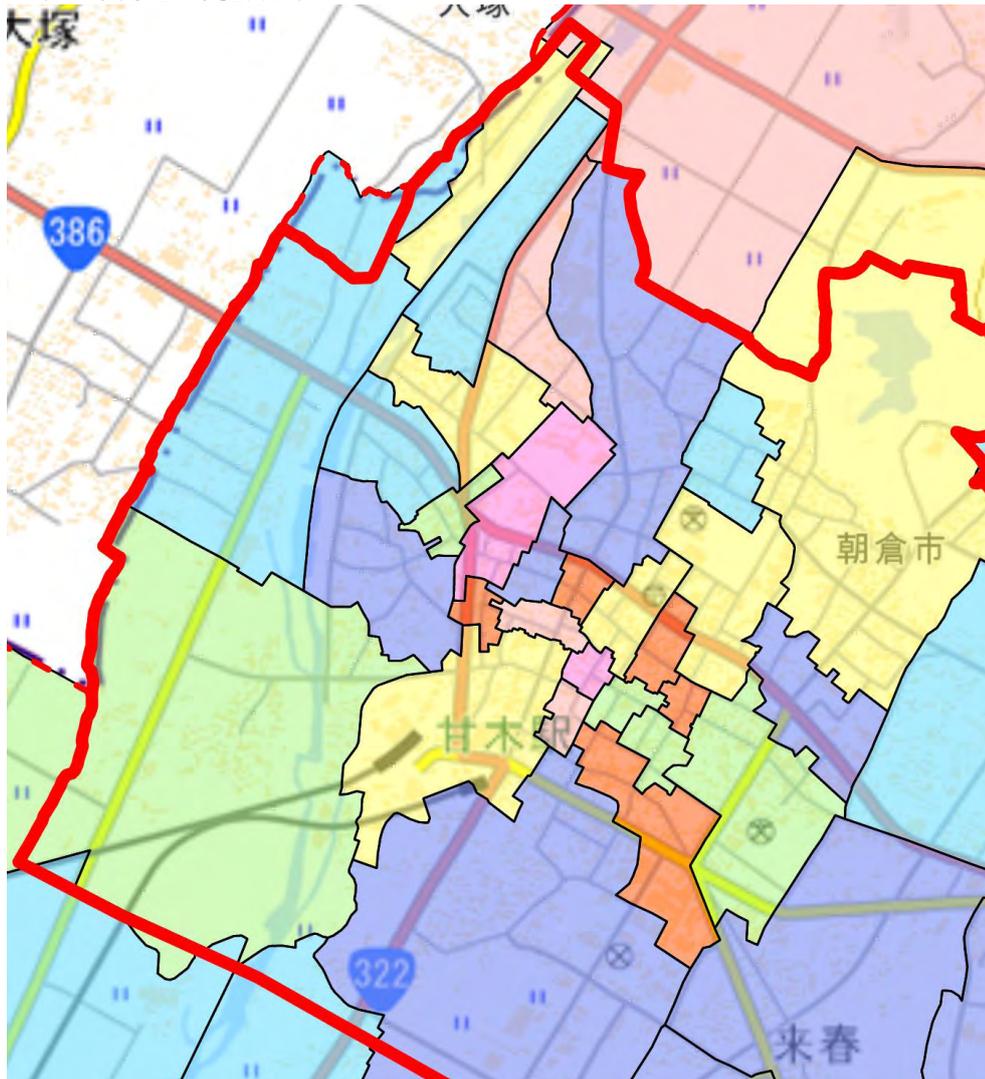
注：ここでいう「中心市街地」とは、商業地域および近隣商業地域に指定された区域を指し、そこに含まれる小地域の人口を集計した

【小地域】

甘木八日町、甘木八幡町、甘木馬場町、甘木三福町、甘木四重町、甘木四日町、甘木上新町、甘木下新町、甘木山領町、甘木高原町、甘木庄屋町、甘木上二日町、甘木川端町

注：調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%とならない場合があります。

■中心市街地の高齢化率



2020年国勢調査（単位：%）

65歳以上人口の割合	
■	居住者なし
■	0以上～25未満
■	25以上～30未満
■	30以上～35未満
■	35以上～40未満
■	40以上～45未満
■	45以上～50未満
■	50以上

資料：令和2年国勢調査 小地域集計

## (2)産業

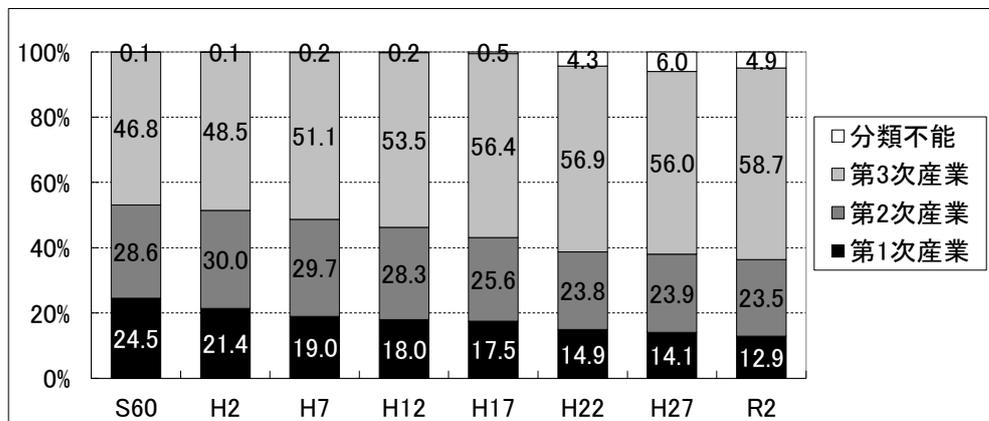
### ①就業人口

令和2年の国勢調査によると、産業大分類別人口は、第1次産業が3,103人(12.9%)、第2次産業が5,669人(23.5%)、第3次産業が14,163人(58.7%)、分類不能が1,173人(4.9%)となっています。

福岡県平均と比較すると、第1次産業で約10ポイント(福岡県平均:2.4%)、第2次産業で約4ポイント(福岡県平均:19.4%)、それぞれ上回り、第3次産業で約16ポイント(福岡県平均:74.9%)下回っています。

地域別にみると、朝倉地域と杷木地域で、第1次産業の割合が非常に高くなっています。

### ■産業大分類別人口



		S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
単位		1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
就業人口	人	32,693	32,237	32,156	31,283	30,041	27,763	26,038	24,108
第1次産業	人	8,017	6,908	6,113	5,645	5,266	4,141	3,666	3,103
第2次産業	人	9,346	9,659	9,557	8,839	7,693	6,612	6,216	5,669
第3次産業	人	15,297	15,650	16,422	16,748	16,937	15,810	14,591	14,163
分類不能	人	33	20	64	51	145	1,200	1,565	1,173
就業率	%	50.2	50.6	51.4	50.7	50.6	49.3	49.6	48.0

資料:国勢調査

### ■地域別の産業大分類別人口

単位		甘木地域	朝倉地域	杷木地域	福岡県
第1次産業	人	1,580	1,060	463	54,589
	%	9.2	27.2	15.4	2.4
第2次産業	人	4,175	739	755	436,066
	%	24.3	18.9	25.1	19.4
第3次産業	人	10,646	1,897	1,620	1,687,998
	%	61.9	48.6	53.9	74.9
分類不能	人	801	205	167	74,481

資料:令和2年国勢調査

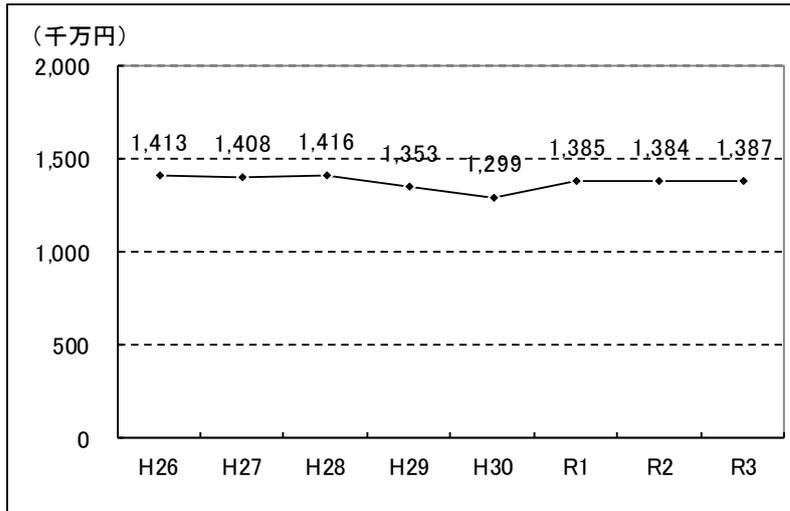
②農業

農業産出額は平成26年からほぼ横ばいで推移しており、令和3年では1,387千万円でした。福岡県内の産出額は久留米市、八女市、糸島市に次ぐ第4位となっています。

品目別の産出額を比較すると、野菜(26.1%)が最も多く、次いで果実(20.2%)、令和元年から鶏(鶏卵13.6%)が米を抜いて3位となりました。

平成26年から令和3年の品目毎の推移では、鶏(鶏卵)を除き、産出額、構成比共に減少傾向にあります。

■農業産出額の推移



資料:市町村別農業産出額(推計)

■R3農業産出額(上位5市)

順位	市町村	産出額 (千万円)
1	久留米市	2,896
2	八女市	2,504
3	糸島市	1,774
4	朝倉市	1,387
5	みやま市	1,006

■農業産出額における上位の産出額

	農業 産出額 千万円	野菜		果実		鶏(鶏卵)		米	
		産出額 千万円	構成比 %	産出額 千万円	構成比 %	産出額 千万円	構成比 %	産出額 千万円	構成比 %
平成26年	1,413	507	35.9	339	24.0	7	0.5	189	13.4
平成27年	1,408	529	37.6	309	21.9	8	0.6	201	14.3
平成28年	1,416	553	39.1	287	20.3	7	0.5	216	15.3
平成29年	1,353	491	36.3	281	20.8	7	0.5	216	16.0
平成30年	1,299	477	36.7	257	19.8	7	0.5	201	15.5
令和元年	1,385	380	27.4	258	18.6	185	13.4	179	12.9
令和2年	1,384	387	28.0	268	19.4	184	13.3	163	11.8
令和3年	1,387	362	26.1	280	20.2	188	13.6	158	11.4

資料:市町村別農業産出額(推計)



③商業

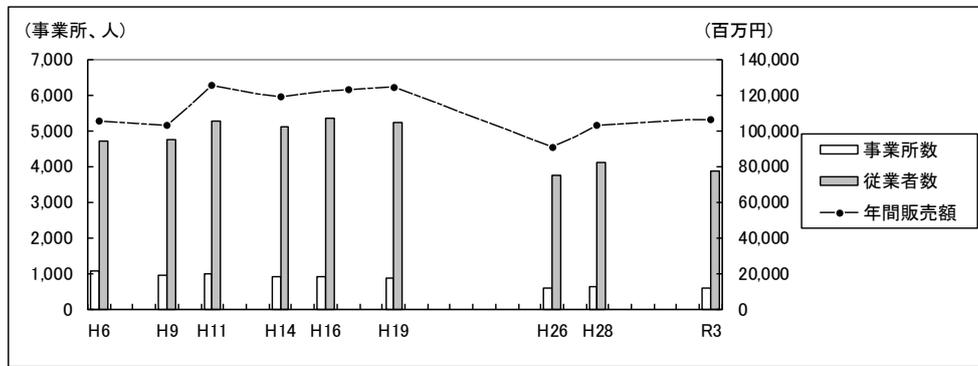
令和3年の商業販売額（年間商品販売額）は、106,327百万円となっています。平成14年以降、平成19年までは微増傾向でしたが、平成26年では大きく減少し、その後は微増傾向にあります。事業所数は減少傾向にあり、従業者数は4,000人以下まで減少しています。

平成28年から令和3年までの推移における福岡県平均との比較では、特に、卸売業の従業者数の減少が福岡県平均よりも大きく、商品販売額は約1割増加していますが、1人当りの年間販売額は福岡県平均の約5割増になっています。

また、福岡県における業態別（スーパー）の商業販売額の推移をみると、平成26年から減少傾向で推移していましたが、令和2年から増加傾向にあります。

大規模小売店舗（大型店）の立地状況は、甘木地域の甘木インターチェンジ周辺を中心に集積がみられるとともに、朝倉地域や杷木地域でも立地がみられます。また、近年でも出店が進んでいます。

■事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移



地域名	平成6年			平成9年			平成11年			平成14年			平成16年			平成19年			平成26年			平成28年			令和3年		
	事業所数	従業者数	年間販売額	事業所数	従業者数	年間販売額	事業所数	従業者数	年間販売額	事業所数	従業者数	年間販売額	事業所数	従業者数	年間販売額	事業所数	従業者数	年間販売額	事業所数	従業者数	年間販売額	事業所数	従業者数	年間販売額			
朝倉市	1,061	4,698	105,290	935	4,725	102,925	996	5,258	124,809	910	5,103	118,647	909	5,323	121,743	843	5,209	124,137	565	3,742	90,565	613	4,104	102,974	585	3,857	106,327
甘木地域	772	3,607	88,424	675	3,599	86,365	727	4,189	104,975	650	3,835	101,013	658	4,050	99,083	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
杷木地域	178	518	6,217	162	563	6,464	169	538	9,860	164	640	7,496	158	597	7,246	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
朝倉地域	111	573	10,649	98	563	10,097	100	531	9,974	96	628	10,139	93	676	15,415	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：商業統計調査（平成6年～平成26年）、経済センサス活動調査（平成28年、令和3年）

注：朝倉市の年間販売額と年間販売額の合計との間には四捨五入による誤差がある場合もあります

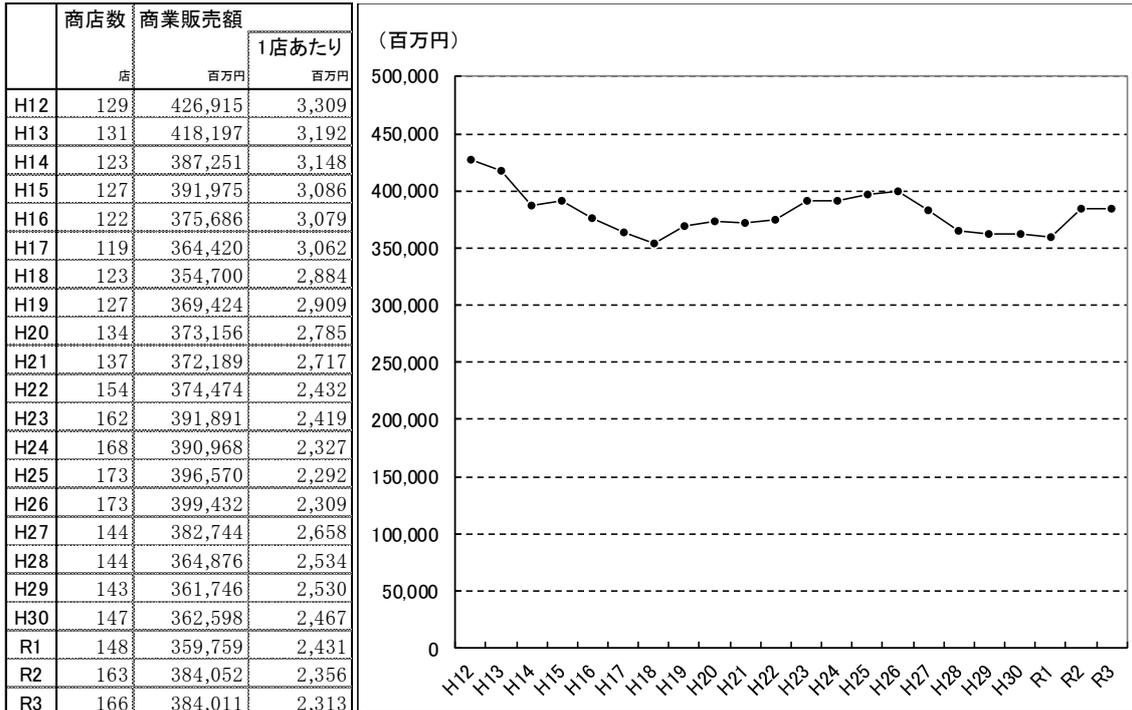
注：グラフの空白部については、調査結果が公表されておりません。また、商業統計調査は平成26年に廃止され、新たに創設された「経済構造実態調査（経済センサス活動調査）」に統合・再編されました

■事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移（福岡県との比較）

	福岡県			朝倉市				
	H28	R3	R3/H28	H28	R3	R3/H28		
合計	事業所数	事業所	46,813	45,724	0.98	613	585	0.95
	従業者数	人	387,622	398,889	1.03	4,104	3,857	0.94
	年間商品販売額	百万円	21,760,943	21,440,701	0.99	102,974	106,327	1.03
	1人当りの年間販売額	百万円/人	56	54	0.96	25	28	1.10
卸売業	事業所数	事業所	13,501	13,517	1.00	102	104	1.02
	従業者数	人	131,746	133,966	1.02	829	630	0.76
	年間商品販売額	百万円	16,155,837	15,947,136	0.99	38,881	44,565	1.15
	1人当りの年間販売額	百万円/人	123	119	0.97	47	71	1.51
小売業	事業所数	事業所	33,312	32,207	0.97	511	481	0.94
	従業者数	人	255,876	264,923	1.04	3,275	3,227	0.99
	年間商品販売額	百万円	5,605,106	5,493,565	0.98	64,093	61,762	0.96
	1人当りの年間販売額	百万円/人	22	21	0.95	20	19	0.98
	売場面積	m <sup>2</sup>	5,715,859	5,745,845	1.01	79,995	96,685	1.21
	売場面積当りの年間販売額	千円/m <sup>2</sup>	981	956	0.97	801	639	0.80

資料：経済センサス活動調査（平成28年、令和3年）

■業態別（スーパー）商業販売額の推移（福岡県）



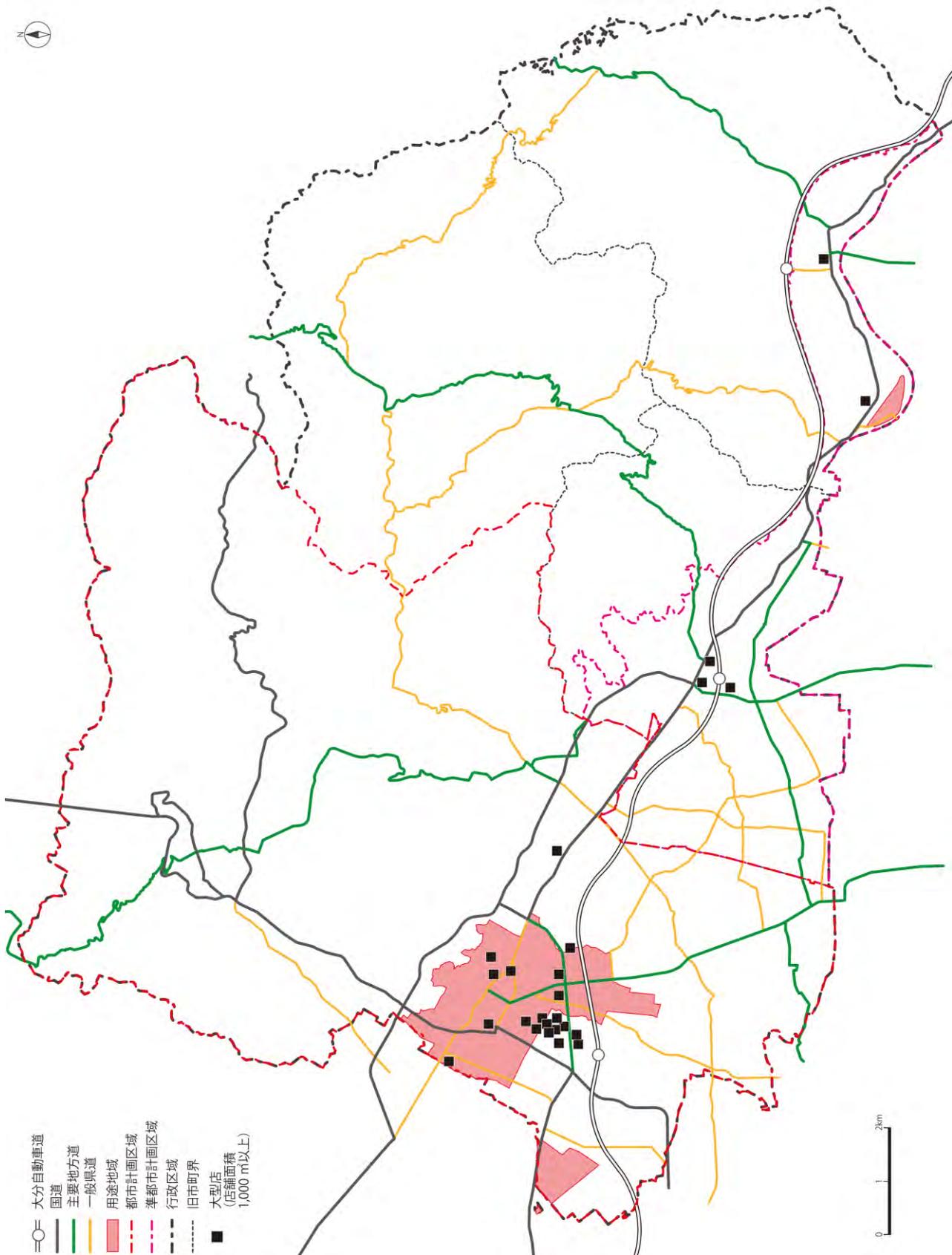
■大型店（店舗面積 1,000㎡以上）の立地状況

名称	店舗面積 ㎡	延床面積 ㎡	開設 年月	業態	所在
イオン甘木SC	15,782	24,654	1998.04	スーパー	甘木380
コメリパワー甘木インター店	9,466	9,999	2018.09	ホームセンター	一木1197
ホームセンターナフコ甘木インター店	6,827	7,687	1996.11	ホームセンター	甘木427-1
ライフガーデン甘木店	5,983	-	2021.04	スーパー	甘木355-1
スーパーセンタートライアル甘木店	4,462	5,820	2008.02	スーパー	屋永4272-1
グッデイ朝倉店	3,500	4,123	1994.09	ホームセンター	多々連127-1
グッデイ甘木店	3,300	4,032	1998.11	ホームセンター	甘木291-1
エディオン甘木店	2,782	-	2013.11	専門店	甘木330-1
Aコープ甘木店	2,620	-	2008.11	食品スーパー	屋永4334-10
alzo甘木店(アルゾ甘木店)	2,355	-	2018.01	食品スーパー	一木516
スーパードラッグコスモス甘木店	2,226	-	2005.04	専門店	堤1027-1
ヤマダ電機テックランド甘木店	2,016	3,310	2007.05	専門店	甘木369-1
ホームプラザナフコ杷木店	1,839	-	2009.05	ホームセンター	杷木久喜宮1999-41
マルショク来春店	1,644	2,127	1999.01	食品スーパー	来春6-1
Aコープあさくら店	1,644	-	2008.08	食品スーパー	宮野2130-1
ダイソー福岡甘木店	1,510	-	2004.10	専門店	甘木308-1
ドラッグコスモス三輪店	1,491	-	2012.12	専門店	甘木2341-6
ドラッグストアモリ甘木インター店	1,400	-	2009.08	専門店	一木1221-1
レッドキャベツ甘木店	1,366	-	2014.03	食品スーパー	甘木1677-1
ファッションセンターしまむら甘木店	1,264	-	2019.09	専門店	甘木288-1
あんくるふじや・あんくる夢市場甘木店	1,238	-	2013.05	食品スーパー	甘木336-1
マルキョウ杷木店	1,225	1,396	2009.04	食品スーパー	杷木池田533-1
ダイレックス朝倉店	1,144	-	2013.11	スーパー	須川2511
計	77,084				

資料：平成30年度都市計画基礎調査,東洋経済新報社「全国大型小売店総覧2020」



■大型店（店舗面積 1,000 m<sup>2</sup>以上）の立地状況



資料：平成30年度都市計画基礎調査、東洋経済新報社『全国大型小売店総覧2020』

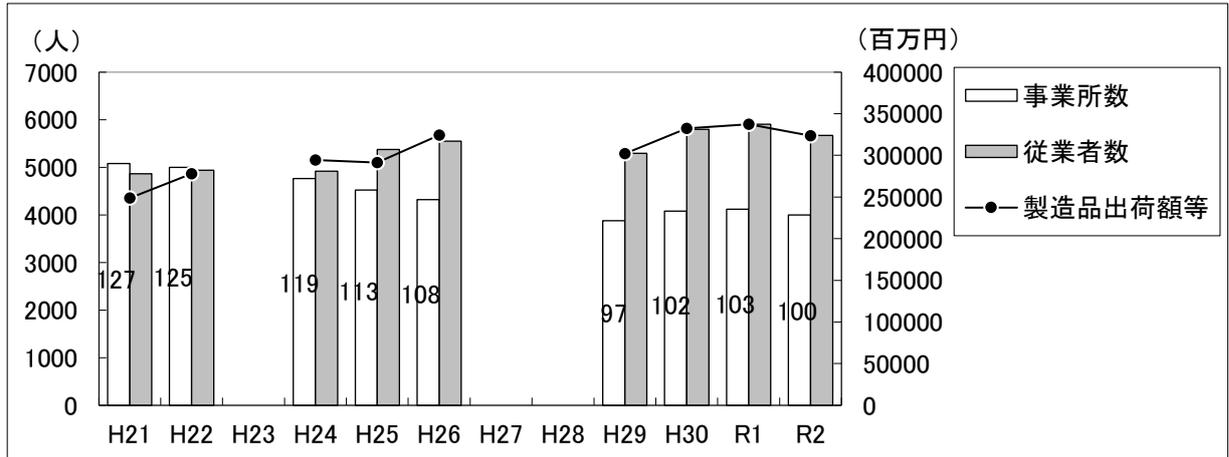
④工業

令和2年の工業出荷額（製造品出荷額等）は、323,587百万円となっています。

平成21年から令和元年まで推移では、製造品出荷額等は漸増傾向でしたが、令和2年は約13,800百万円減少しました。また、事業所数は微減傾向にありますが、従業者数は工業出荷額と同様に増加傾向となっています。

産業中分類別の工業出荷額をみると、飲料・たばこ・飼料製造業が35.8%を占め、次いでゴム製品製造業が32.2%と続いています。

■事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移



		平成21年	平成22年	平成24年	平成25年	平成26年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
事業所数	事業所	127	125	119	113	108	97	102	103	100
従業者数	人	4,864	4,938	4,914	5,374	5,549	5,292	5,794	5,906	5,672
製造品出荷額等	百万円	248,844	277,988	294,232	291,219	324,396	302,237	332,409	337,417	323,587

※平成23年、27～28年は調査なし

■産業中分類別製造品出荷額等の内訳

産業中分類	製造品出荷額等	
	百万円	%
1 飲料・たばこ・飼料製造業	11,572,050	35.8
2 ゴム製品製造業	10,433,464	32.2
3 食料品製造業	4,020,278	12.4
4 輸送用機械器具製造業	2,575,649	8.0
5 金属製品製造業	1,107,863	3.4
	32,358,725	100.0

資料: 令和2年工業統計調査



### ⑤観光

朝倉市の観光施設としては、原鶴温泉をはじめ、三連水車、平塚川添遺跡、甘木公園、秋月城址などがあり、果樹園におけるフルーツ狩りも楽しめます。

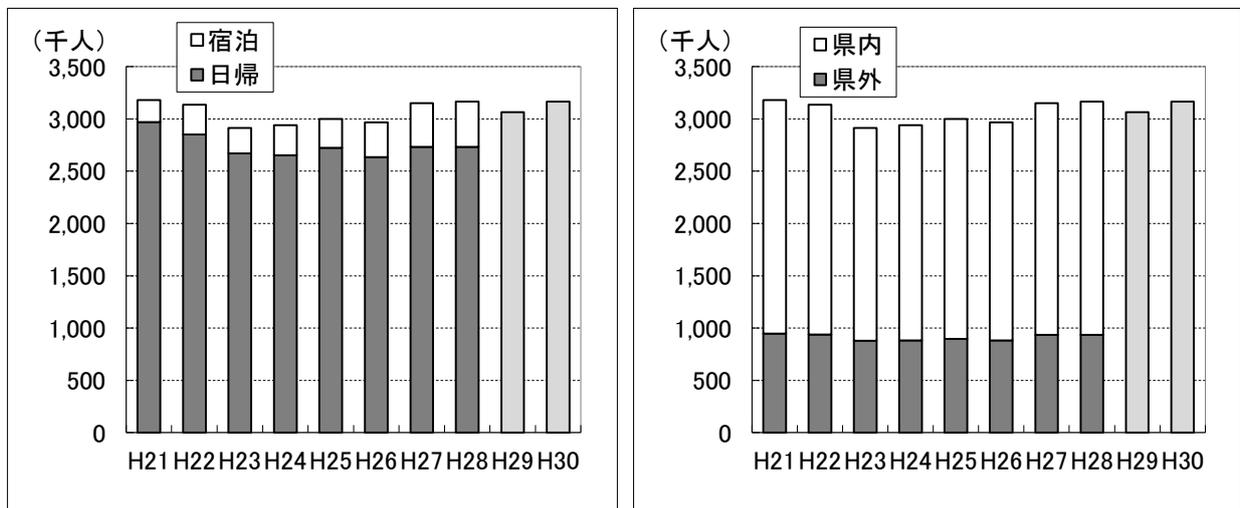
平成 28 年の観光入込客数は、3,167 千人です。その内訳は、日帰りが多く、県内からの観光が多くなっています。平成 21 年以降の推移をみると、概ね 3,000 千人前後で推移しています。

目的別にみると、都市型観光（観光都市に滞在し、歴史遺産や町並、古典芸能やコンサート、美術鑑賞などの芸術、テーマパークなどのアミューズメント、ショッピングや飲食、夜景などを楽しむ観光のこと）が 35.8%を占めています。

次いで、温泉・健康が 21.1%で続いています。

平成 29 年の九州北部豪雨の影響は受けていますが、入り込み客数に大きな減少はありません。しかし、令和元年以降、コロナの影響で外国人観光客が大幅に減少したことから、朝倉市でも観光に与える影響が大きいと考えられます。

■市内観光入込客数の推移（平成 28 年福岡県観光入込客推計調査・令和 2 年朝倉市観光振興指針）



資料:福岡県観光入込客推計調査

資料:令和2年朝倉市観光振興指針

注：H28 までは「福岡県観光入込客推計調査」に市区町村別に「宿泊・日帰」、「県内・県外」の内訳が有りましたが、H29 以降は集計方法が変わり、県単位の集計となったため、「朝倉市観光振興指針」から推移表を作成しています。しかし、「朝倉市観光振興指針」には「宿泊・日帰」、「県内・県外」別の内訳が無いので H29 以降はそれぞれの内訳を合わせた数値になっています。

### ■目的別入込客数

目的	客数(千人)	割合(%)
①自然	21	0.7%
②歴史・文化	564	17.8%
③温泉・健康	668	21.1%
④スポーツ・レクリエーション	65	2.1%
⑤都市型観光	1,134	35.8%
⑥その他観光地点	54	1.7%
⑦行祭事・イベント	661	20.9%
合計	3,167	100.0%

資料:平成28年福岡県観光入込客推計調査

### (3)土地利用

#### ①土地利用現況

土地利用現況図をみると低地部には、田が広がっているものの、集落地（住宅用地）の周辺では、畑も多くみられます。用途地域内は、住宅用地を中心に、公益施設用地や商業用地、工業用地がみられます。ただし、用途地域の境界付近では、田や畑などの低未利用地も確認できます。

土地利用面積をみると、用途地域では、住宅用地が 28.2%を、工業用地も 15.7%を占めています。また、田や畑も 17.3%あります。用途地域内では、可住地率 60.9%、宅地化率 50.3%となっています。

また、甘木地域の中心部、商業地域及び近隣商業地域に指定された区域では、住宅用地が最も高い割合を占め、51.8%となっています。次いで公共空地 17.7%、商業用地（その他）8.3%となっています。また、可住地率、宅地化率とも、それぞれ 73.0%、63.1%と高くなっています。

#### ■ 中心市街地における可住地率と宅地化率

	自然的土地利用							合計	可住地	非可住地	宅地化率
	田	畑	山林	水面	自然地1	自然地2					
用途地域指定区域	ha	83.7	42.1	8.7	11.8	10.3	11.1	730	444.7	285.3	367.3
	%	11.5	5.8	1.2	1.6	1.4	1.5	100.0	60.9	39.1	50.3
うち	ha	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	34.0	24.8	9.2	21.4
中心市街地	%	0.4	0.4	0.0	0.1	0.1	0.0	100.0	73.0	27.0	63.1
用途地域指定外地域	ha	2,149.1	772.9	6,111.4	293.4	287.7	154.7	11,570.0	10,433.8	1,136.2	626.8
	%	18.6	6.7	52.8	2.5	2.5	1.3	100.0	90.2	9.8	5.4

	都市的土地利用												
	住宅用地	商業(小売)	商業(その他)	工業用地	公共施設用地	公共空地1	公共空地2	道路用地	交通施設用地	その他の空地	未利用宅地	農林施設用地	
用途地域指定区域	ha	205.5	16.6	30.3	114.9	44.8	11.9	2.4	85	3.4	15.9	30.8	0.8
	%	28.2	2.3	4.2	15.7	6.1	1.6	0.3	11.6	0.5	2.2	4.2	0.1
うち	ha	17.6	0.8	2.8	0.2	2.3	6.0	0.2	0.5	0.0	0.2	3.1	0.0
中心市街地	%	51.8	2.5	8.3	0.5	6.7	17.7	0.7	1.3	0.0	0.5	9.1	0.0
用途地域指定外地域	ha	460.5	24.3	36.2	105.8	99.3	33.7	4	441.4	3.9	309.1	215.7	66.9
	%	4.0	0.2	0.3	0.9	0.9	0.3	0.0	3.8	0.0	2.7	1.9	0.6

資料：平成30年都市計画基礎調査

※ここでいう中心市街地とは、商業地域及び近隣商業地域に指定された区域を指す

※表の合計は、自然的土地利用と都市的土地利用の合計を示す

